

## 特集：ロシアの赤の広場の軍事パレードは、 中国に何を示唆するか

漢和防務評論 20150703 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

今年5月にロシアの赤の広場で行われた戦勝70周年記念軍事パレードにロシアの新型戦車と新型歩兵戦車が登場しました。  
漢和防務評論の平可夫氏は、この陸戦兵器がロシア軍事産業の新潮と創新を示すものとして、中国に欠けている創造性を指摘しました。  
ロシア軍事パレード見学記です。

平可夫

T-14 型主力戦車 (MBT)、及び T-15 型歩兵戦闘車が 2015 年に終に姿を現した。当然驚くべきことである。中国軍事工業にはない创新能力 (創造性) を示しているからである。T-14 (OBJECT 148) は、純粋にロシア時代になってから開発された装甲兵器であり、ソ連時代に開発が開始されたのではない。2009 年に開発が開始されており、開発速度は相当速い。リモートコントロール式無人砲塔の MBT は、装甲強国の米国、フランス、英国等ですら保有していない。  
中国の最新式 T-99 戦車も、出現当初はソ連製戦車の痕跡から脱し得ず、シャーシー (車台) は、T-72 のシャーシーを基礎に改修したもののようである。改修完了後、楔形砲塔など西側のモデルに接近し始めた。

T-14 は、従来のロシア (ソ連) 式戦車の伝統から換骨奪胎した戦車であり、全く別物で東側にも西側にも似た戦車を見つけ出すことが出来ない。これが創新の意味である。

T-14 MBT の出現は、ロシア製戦車の若干の技術的革命を意味する。第一、重型戦車と重型歩兵戦車 (IFV) の技術差がますます縮小した。しかもシャーシーに関しては汎用化がますます拡大している。ロシアの歩兵戦車は、重型化に向かって進んでいる。したがって重量 20 トンの T-15 型歩兵戦車が出来たのだ。T-14 の設計は、URAL DESIGN BUREAU OF TRANSPORT MACHINE- BUILDING 社が行っており、生産はニジニタギルの URALVAGONZAVOD で行われている。すなわちここは伝統的な T-72 の生産基地である。2015 年に出現した T-14 型は実験型ではなくであり、現在約 24 両のみ生産されたと言われている。しかしロシア陸軍はすでに正式に採用した。計画によれば、今年ロシア陸軍は、32 両の T-14 を取得し、国家の領収検査を行う。これには通常 1 年かかる。2020 年以前に、ロシア陸軍はおおよそ 2300 両の T-14 を取得する必要がある。URALVAGONZAVOD は毎年 500

両の T-14 を生産する能力がある。現在、同工場は T-90S 戦車を生産している。T-14 の全重量は 48 トン前後である。設計は依然としてロシア製の特色を有している。ただし 7 対のロードホイールを有し、シャーシーは相当広く、今後の発展の余地を残している。無人砲塔なので、乗員は 3 名、今後 2 名になる可能性がある。写真を見ると、装甲は、全て新たに設計されたモジュール化された 44S-SV-SH である。この種の装甲技術の細部は未だ公表されておらず、装甲の厚さはロシアのどの現役戦車よりも厚い。しかし一説によると、相当軽量化が図られているという。この点は新材料を採用したからと考えられ、セラミックや全く新しい複合材料を使用した可能性が高い。

主砲は、口径 125 MM の 2A82 滑腔砲を採用、無人砲塔なので排煙装置を必要としない。このような簡単な構造は砲の重量を減らした。砲の長さは 2A46 シリーズより明らかに長く、射程、命中精度も高まっている。

T-15 重型歩兵戦車は、EPOCH リモートコントロール砲塔を採用している。ロシアはこのほか、T-14 のシャーシーを土台にして 2S35 型 152 MM 自走砲を開発中である。

T-14 のディーゼルエンジンは、最新型の A-85-3A であり、1500 馬力、平時の出力は 1200 馬力である。8 段の自動変速機であり、操縦性は良いはずだ。最高時速は 80 KM である。この種の戦車の設計は早期に放棄された T-95 を参考にしている部分が多い。例えば、換骨奪胎の明らかな特徴は無人砲塔である。しかも独立した弾倉を持っている。弾倉と乗員は完全に隔離されている。リモコン式無人砲塔はデジタル式であり、ロシアの戦車設計者の構想は、T-14 を基礎にして逐次完全なリモコン型無人戦車を開発するにあるようだ。

T-14 は、韓国の K-2 MBT と少し似ている。前者は、Ka バンドのアクティブ・フェーズド・アレイ・レーダー (26.5 - 40GHz) を装備している。一説によると、いくつかのレーダー技術は、T-50 型第 5 世代戦闘機の部品を採用したという。しかしパレードに参加した T-14 はこれを装備していなかった。

機関銃もリモコン式である。レーザー誘導ミサイルは、新時代の KORNET-D である。射程は従来の 4000 乃至 5000 M (レーザー誘導対戦車ミサイル) から 7000 乃至 12000 KM に増加した。弾薬の基準数は依然として 32 発である。その他に 30 MM 機関砲と 12.7 MM 機関銃がある。エンジンルームの両サイドに格子状のネットを設置し、ロケット弾攻撃を防いでいる。これは明らかにチェチェン戦争の教訓を基にしている。

視界に就いては、改良された T-90SM 型から見ると、必要なものは全て完備している。砲長の照準用サイトは、無人砲塔に装着されている。車長の周囲監視用サイトは車体の頂部にあり、視界が極めて大きい。

更に、レーザー警告装置を含む防護システムが砲塔前部にある。防護範囲の重点は、車体前方に集中し、砲塔に APFSDS 弾 (装弾筒付翼安定徹甲弾) や対戦車ミサイル

が命中しても車体内部の乗員の生存率が高い。

**T-14** は、ステルス性を相当重視している。このため **5+5** の排煙管をシャーシーと砲塔の結合部に取付けている。この設計も独創的である。しかし砲塔の正面は欧米で流行の楔形は採用せず、正面装甲に角度を持たせている。砲塔が無人化されたことから、正面の寸法はどのくらいであろうか？設計概念はどのようなのか？今後設計担当者に話を聞く必要がある。

**T-15 重型歩兵戦車 (KURGANETS-25)** は、**T-14** のシャーシーを利用して **T-14** と同時に出現した。側面は **50 CM** の厚さのモジュール化された装甲で保護されている。これは新時代の **DROZD-2** 型アクティブ防護システムのようなものである。

火器管制システム全体がリモートコントロールになっており、乗員 **3** 名でコントロールする。**30 MM** 機関砲が **1** 門、**7.62 MM** 機関銃が **1** 挺ある。**4** 発の **KORNET-EM** 型対戦車ミサイルが砲塔の外側に装備される。射程は **8** 乃至 **10 KM** であり、装甲目標とヘリの攻撃に用いられる。しかも **BMP-3** とは異なり、対戦車ミサイルを砲塔内部に置いていない。この点は、西側の歩兵戦車の設計理念と似ている。**T-15** は、歩兵 **7** 名を搭乗させ、出口は後部にある。ロシアの **BTR** 系列装輪歩兵戦車の出口は側面にあり、前方からの射撃位置を探すのが極めて容易である。

**T-15** の前部の抗波板と **2** つのウォータージェットは、水陸両用作戦を可能にしている。水上速度は時速 **10 KM** である。ディーゼルエンジンの出力は **500** 乃至 **800** 馬力である。道路上では時速 **80 KM** である。**T-15** は、ニジニタギルの **URALVAGONZAVOD** で生産されている。

今年のロシア軍事パレードの装甲兵器の最大の特徴は、新潮と創新である。

以上